

# 東京のまちづくり

東京都建設局

特集1 連続立体交差事業推進中  
～踏切がなくなる、まちが生まれ変わる～

特集2 庭園の冬の風物詩「雪吊り」

鉄道の高架化で!!  
地下化で!!

## 踏切解消

都内踏切 約1,050箇所



渋滞がなくなり、にぎわいのあるまちになります。



小石川後楽園の雪吊り

# 連続立体交差事業 推進中

都内には、約1050箇所の踏切が存在  
そのうち200箇所以上が「開かずの踏切」



「開かずの踏切」に誰もがイライラ!



バスや救急車も遮断する渡れない踏切!

解消!

渋滞解消で人とモノの流れがスムーズに

地域分断解消により賑わいのあるまちに

ストック効果



第一京浜 (京急蒲田駅付近)

踏切による交通渋滞が解消

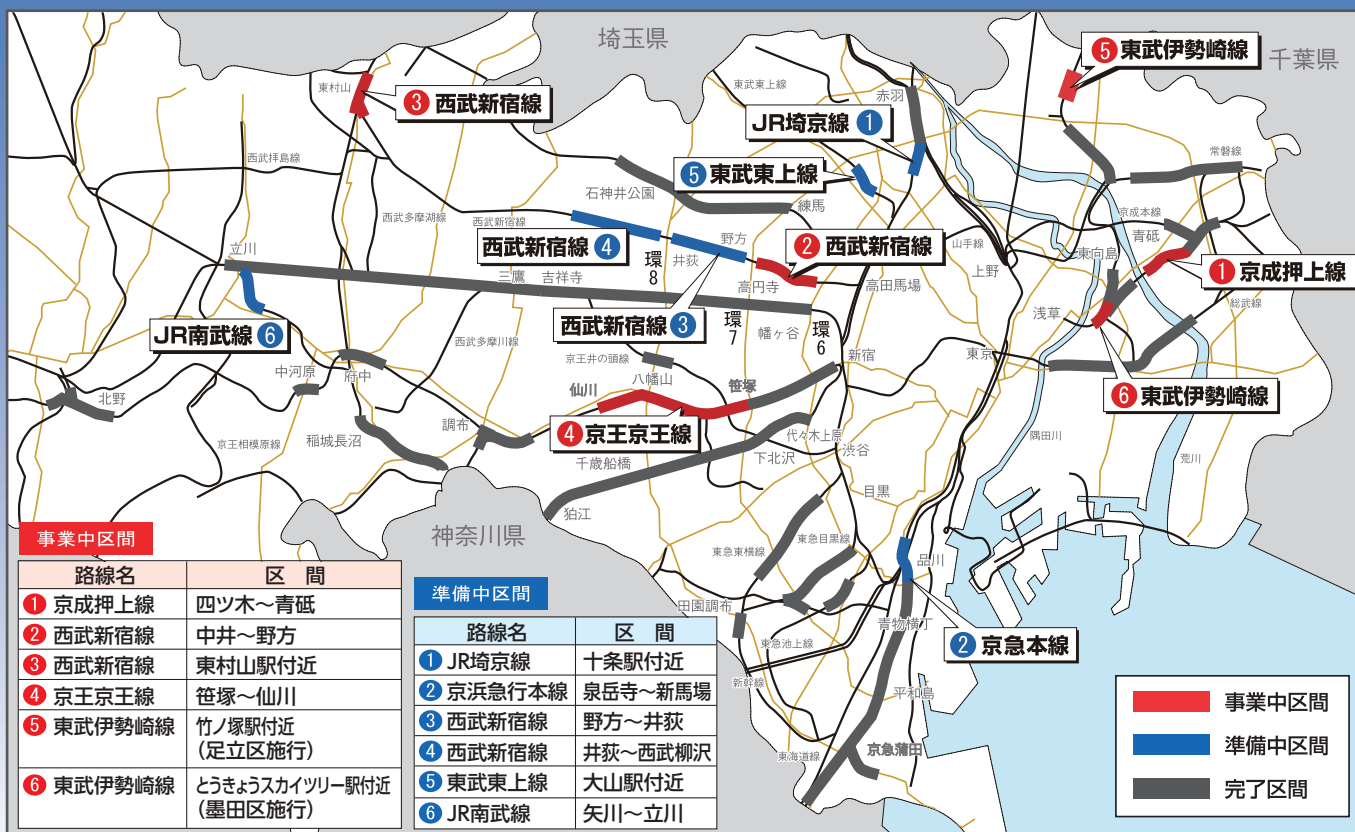
高架下に保育所や商業施設などを整備し、便利なまちに



事業を契機に再開発等が進展



武蔵小金井駅 (JR中央線)



～踏切がなくなる、まちが生まれ変わる～

連続立体交差事業とは???

道路整備の一環として、鉄道を一定区間高架化または地下化し、多数の踏切の除却と交差する道路との立体化を一挙に実現する都市計画事業です。

平成30年度に小田急小田原線(代々木上原駅～梅ヶ丘駅間)で事業が完了

昭和40年代から進めてきた代々木上原駅から和泉多摩川駅までの立体化が全区間で完成



世田谷代田駅付近

【小田急小田原線連続立体交差事業の歩み】

合計52箇所の踏切を除却



8年ぶりに生まれたコアラ

多摩動物公園 南園飼育展示係 永田典子

コアラは木の上で一日に20時間くらい寝て過ごす、変わった動物です。主食のユーカリには毒素が含まれているうえ、固くて繊維が多いため消化をするのが大変です。そのわりに栄養素が少ないので、エネルギーを節約するためにあまり動かないようにしているのです。

カンガルーと同じ有袋類で、約35日という短い妊娠期間で未熟な子を産みます。子は生まれてすぐに自力で母親のおなかの袋によじ登り、中にある乳首に吸い付き袋の中で育ちます。約6か月を過ぎると顔だけ出して袋の外に興味を持つようになり、やがて袋から出たり入ったりを繰り返すようになります。このころ、母親が出す「パップ」という特別なウンチを食べます。これはコアラの離乳食で、腸内でユーカリを分解するために必要な微生物をもらうためです。

今回生まれた子はオスで、2019年2月7日に生まれました。最初に袋から顔を出しているのを見たのは8月に入ったころでした。はじめは毛が短く大きな鼻が目立つ赤ちゃんでしたが、10月なかばになると袋に戻れない大きさに成長し、母親の背中につかまって移動をするようになりました。1歳を過ぎると親離れが始まります。元気に大きなオスに成長するのを期待しています。



動物園の“かお” 多摩動物公園 レッサーパンダ



2019年6月に生まれたレッサーパンダの「シンファ」「メイファ」(ともにメス)です。ぜひ会いに来てください。